第２【事業の状況】

１【事業等のリスク】

当第１四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

２【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第１四半期連結累計期間（2023年11月１日から2024年１月31日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の分類が５類感染症へ移行したことに伴い、国内外の社会経済活動も一段と正常化が進んでまいりました。しかしながら、依然として各国との金利差による円安の進行や中東における地政学的リスク等、国内外の経済に与える影響が懸念され、先行き不透明な状況が続いております。

ウェディング業界におきましては、2023年の婚姻件数が48万組（厚生労働省「2023年 人口動態統計速報の年間推計」）と前年と比べ３万組減少しており、結婚適齢期人口の減少を背景に、挙式・披露宴件数は緩やかに減少傾向にあるものの、ゲストハウス・ウェディング市場は概ね底堅く推移しております。

このような状況の下、結婚式に対する価値観の多様化が広がるなかで、当社グループは「ご縁ある人々の笑顔と幸せのために行動し、挑戦する」という経営理念に基づき、パーソナルなウェディングやサービスを提供すべく、スタッフの人間力・接客力向上を目的とした社内外の研修、独自の営業支援システムを活用した情報収集力・分析力を強化し、各施策に積極的に取組んでまいりました。また、ウェディング市場のシェア拡大に向けて、潜在的な顧客ニーズを掘り起こす手段としてデジタルマーケティングを内製化し、集客力の向上、売上高の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、当第１四半期連結累計期間の売上高は5,156百万円（前年同四半期比5.0％増）、営業利益は436百万円（同20.6％増）、経常利益は442百万円（同19.7％増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は286百万円（同58.8％増）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

① 婚礼事業

前連結会計年度（2023年４月）にオープンした「The迎賓館　偕楽園　別邸」（水戸支店）が稼働したことに加え、既存店の施行組数が減少したものの、施行単価が増加したことにより、売上高は4,821百万円（前年同四半期比2.7％増）、人件費等の増加により、営業利益は377百万円（同0.3％増）となりました。

② 介護事業

前連結会計年度（2023年３月）にオープンした「アイケアライフ伊万里」（伊万里２号店）が稼働したこと等により、売上高は156百万円（前年同四半期比11.5％増）となりましたが、人件費等の増加により営業利益は０百万円（同84.8％減）となりました。

③ 食品事業

売上高は70百万円（前年同四半期比6.1％増）となりましたが、人件費等の増加により、営業利益は12百万円（同12.8％減）となりました。

④ フォト事業

前連結会計年度（2023年３月）にオープンした「studio clori.NAGOYA」（名古屋支店）が稼働したこと等により、売上高は150百万円（前年同期比243.5％増）、営業利益は46百万円（前年同四半期は16百万円の営業損失）となりました。

⑤ 結婚仲介事業

売上高は５百万円（前年同期比199.5％増）、営業損失は１百万円（前年同四半期は14百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,750百万円減少し18,261百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,328百万円、売掛金が216百万円、投資その他の資産その他が103百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ834百万円減少し9,127百万円となりました。これは主に、買掛金が440百万円、未払法人税等が309百万円、流動負債その他が206百万円、賞与引当金が185百万円それぞれ減少し、長期借入金が276百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ915百万円減少し9,134百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益286百万円の計上による増加と剰余金の配当703百万円による減少の他「信託型従業員持株会インセンティブ・プラン」の再導入による自己株式の取得及び処分を行い、自己株式が501百万円増加したことによるものであります。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント下降し49.8％となりました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第１四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第１四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は、以下のとおりであります。

会社名	事業所名 「店舗名」 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定年月	完成後の増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出会社	東京第２支店 「未定」 (東京都江東区)	婚礼事業	レストラン施設	1,395,600	―	借入金及び自己資金	未定	未定	１レストラン

(注) 店舗名、着手年月、完了予定年月は、提出日現在では未定であります。

３【経営上の重要な契約等】

当第１四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。